入浴剤使用による親子のＱＯＬ向上の可能性を発見

バスクリン

入浴剤メーカーのバスクリンは、エスアンドエーアソシエーツ、広島国際大学心理学部田中秀樹教授の研究グループとの共同研究で、浴用剤を使用した習慣的な入浴が、養育者の負担などのストレス軽減や親子の睡眠の質を上げ、ＱＯＬ向上に寄与する可能性を見出した。研究成果については、２０１９年６月27・28日に開催された第44回日本睡眠学会定期学術集会報告にて発表している。

浴用剤は、入浴によって得られる温熱、静水圧、浮力の作用に加え、血流増加作用、リラクゼーション作用、ストレス軽減などが報告されている。

こうした中、浴用剤の開発とともに入浴と健康の関係性について研究を進める同社は今回の共同研究で、子育て世代の生活ストレスと入浴との関連に着目し、浴用剤を用いた入浴が子どもとその親の睡眠改善およびＱＯＬ向上に及ぼす影響について検討を行った。

関東在住の4歳または5歳の幼稚園児・保育園児をもつ養育者10名に、自宅で無機塩含有炭酸ガス浴用剤を使った入浴（浴用剤あり）と、さら湯入浴（浴用剤なし）の各条件で1週間計測を行ってもらい、各養育者の主観評価と、活動量計による睡眠評価を行った。

解析は、各条件の有効回答を対象に平均値を算出して行い、検定は有意差を見出す「t検定」を用いた。p＜0・10で有意傾向あり、p＜0・05およびp＜0・01で有意差ありとした。

「こどもにかかる手間と入浴」に関する評価では、浴用剤なし条件に比べ、浴用剤あり条件では、普段より有意に手がかからなかった（p＜0・01）。

養育者の睡眠の満足度に関する評価（100点満点評価）では、浴用剤あり条件では、浴用剤なし条件に比べ、「目覚め」の満足度が有意に良好な結果（p＜0・05）が得られ、「疲労回復感」の満足度も高い傾向（p＜0・10）があった。また、養育者からみた子どもの生活および睡眠に及ぼす影響では、子どもの日中の様子に関する評価（－5から＋5の11段評価）は、浴用剤あり条件では、普段より「楽しそう」な様子が有意に観察され（p＜0・05）、浴用剤なしよりも「食事に集中する」様子もうかがわれる傾向（p＜0・10）にあった。

子どもの睡眠状態に関する評価では、浴用剤を用いることで普段より「寝つき」が良好な様子が観察される傾向（p＜0・10）が見られた。また、養育者の総睡眠時間が有意に長く（p＜0・05）、睡眠効率が高い傾向（p＜0・10）が確認された。

以上から、浴用剤ありの条件では、浴用剤の温浴効果、リラックス効果により、ストレスや睡眠に良い影響をもたらしたと考えられ、「入浴に浴用剤を用いることは、養育者のストレスを軽減させ、親子の睡眠の状態を良好化するとともに、ＱＯＬの向上に寄与する」（同社）という。

毛髪の主成分「シスチン」を再生させる成分を発見

ホーユー

ヘアカラーメーカーのホーユーは、毛髪の主要成分である「シスチン」に着目した研究で、「ホウライシダ葉エキス」にシスチンを再生させる効果があることを発見した。

ホウライシダは、ホウライシダ科ホウライシダ属のシダ植物で、タンニンを多く含み、インドのアーユルヴェーダにも使用され、葉の見た目から別名「ヴィーナスヘア」とも呼ばれている。同社は、この知見を今後の製品開発に応用していく。

毛髪の大部分は、ケラチンというタンパク質で構成され、そのケラチンは多くのアミノ酸から構成されている。同社が着目したシスチンは、中性アミノ酸で、必須アミノ酸の1つ。シスチンは、多くのタンパク質に少量ずつ含まれており、皮膚にも存在するが、毛髪などのケラチンタンパクには特に多く含まれている。このシスチンが多く含まれているため、毛髪は硬く、弾力性があり、毛髪の物性に関して重要な役割をもつ。

毛髪内のシスチンは、ダメージを受けると切断され、システインやシステイン酸など様々な状態に変化する。健康的な毛髪を維持するには、再びシスチンに戻す必要があるが、毛髪は死んだ細胞組織の集まりであるため、ダメージさせずにシスチンに戻すことは難しいと考えられてきた。

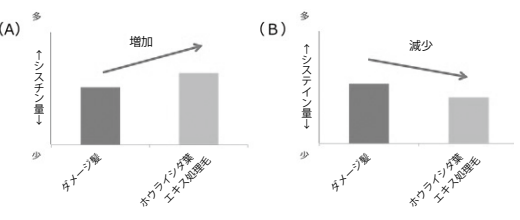
今回の研究では、毛髪内のシスチンが、ヘアカラーやパーマ、ドライヤー熱などのダメージの種類の違いにより変化が見られるかを調査するとともに、ダメージを受けた毛髪の様々な成分に対する影響を調べた。

その結果、ダメージした毛髪に「ホウライシダ葉エキス」を処理すると、毛髪内のシステインが減少し、シスチンが増加することが認められた。

以上のことから、「ホウライシダ葉エキス」には毛髪ダメージによって生成されたシステインをシスチンへ再生する効果があることがわかった。

この研究成果については、公益社団法人日本化学会が主催する第100春季年会にて報告した。

第100春季年会は、3月22～25日まで東京理科大学野田キャンパスにて開催を予定していたが、新型コロナウィルスの影響により、講演発表を中止とし、講演予稿集をもって発表は成立となった。



A：ダメージした毛髪に「ホウライシダ葉エキス」を処理した際の毛髪内のシスチン量の変化
B：ダメージした毛髪に「ホウライシダ葉エキス」を処理した際の毛髪内のシステイン量の変化

週刊粧業 顧問 加藤英夫（週刊粧業 流通ジャーナル 前会長）

流通記者50年「経営トップとの交流の中で」

第24回「国民の美と健康に奉仕」（コクミン 絹巻和美前会長）

コクミンの1号店は、創業者である絹巻薫氏によって1935年（昭和10年）4月、大阪市住之江区粉浜に開業された「粉浜コクミン薬局」である。日本のドラッグストア業界にあって同社は、最も旧い歴史を持つ企業の一つである。

流通ジャーナルでは、同社が創業50周年にあたる1985年にコクミンの特集号を企画し、私が当時会長だった絹巻薫氏にインタビューした。

この中で同氏は、「創業当時は戦前で、薬剤師がお客さまの健康状態に合わせて薬を調合することができましたので非常に喜ばれました」と語っている。

同社の企業理念は「国民の美と健康に奉仕する」であり、店名のコクミンもそこから由来する。薫氏は2009年10月、100歳の長寿を全うされて亡くなられた。

薫氏の長男、絹巻和美氏が後を継ぎ、全国の主要ターミナル立地を中心に化粧品、調剤を主力とする「コンミンドラッグ」をチェーン展開していった。

「父の時代から引き続き、JRとは親密な関係を維持していますので、主要なターミナル立地に次々と出店することができました。また伊丹を除く新千歳、成田、羽田、関西、福岡の国内主要5空港内にも出店しています。こうした積極的な出店の一方、不採算店舗の閉鎖も進めるなど効率経営を推進しました」

コクミンの最大の特徴は、ドラッグストア業界で初めて化粧品を本格展開したこともあって、ターミナル立地を利用した化粧品のコンサルティング販売に定評があることだ。同社では、独自に養成したビューティのスペシャリストである「MBS」（モア ビューティスタッフ）を拠点店舗に配置している。化粧品に特化した新業態「KOCOLO GARDEN」の展開も始めた。

一方、調剤も併設を含めて積極的に多店化を推進している。2018年4月期には、調剤売上高が150億円を超えた。調剤構成比も25％前後の高い水準で推移している。なお同社では、薬剤師研修の一方、登録販売者も含めたヘルスケアのスペシャリスト「MHI」（モア ヘルシー インストラクター）を独自に養成して拠点店舗に配置している。

絹巻家3代目となる和美氏の長男、絹巻秀展社長は、「国民の美と健康に奉仕するという経営理念を原点に、それを具現化した『総合ライフサポート事業』をさらに推進していきます」と語る。

この一環として2017年6月、新たなフラッグシップストアとして東京 原宿竹下通りの好立地に「原宿店」（東京都渋谷区神宮前、売場面積82坪）をオープンした。

「原宿店は、当社最大のメイクアップ化粧品売場などをはじめ、若い女性の感性に合わせた情報発信基地としてSNSなどを活用した新しいトレンドを発信しています」

出店は毎年2桁以上のペースで、2017年4月期は10店、2018年4月期は13店を新設した。売上高は2017年4月期が622億円、2018年4月期が680億円と着実な伸びを示している。店舗数は2018年4月期末で192店、うち調剤取り扱いは42店となっている。

（次回は、CVSファーマシー デビッド B．リカード副社長兼CFO）

薬用ハイドロキシアパタイトの最新研究成果を報告

サンギ

サンギは、主力ブランド「アパガード」をはじめ全てのハミガキ商品に配合する独自のむし歯予防成分「薬用ハイドロキシアパタイト（mHAP）」の新たな研究成果として、同成分配合のハミガキとデンタルローションの併用による歯のエナメル質の改善効果を確認した。

エナメル質の「初期むし歯の再石灰化率」「ミクロの傷の修復」「エナメル質の明度」のいずれも、mHAP配合ハミガキのみの使用時よりも高い改善効果が認められた。この研究報告は、第98回国際歯科研究学会略称「IADR」に提出されている。

IADRは3月18日から21日まで米国ワシントンでの開催が予定され、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、同学会のWebサイト上にて研究の概要が掲載され、学術論文として発表される見込みだという。

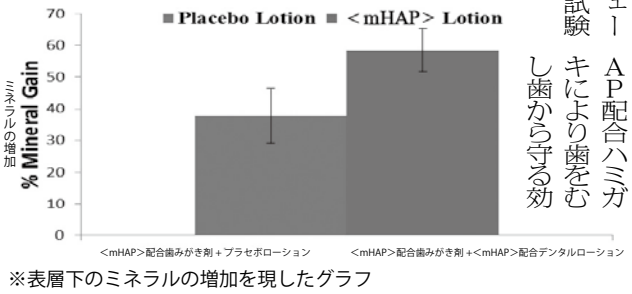
今回の研究は、米国テキサス大学（サンアントニオ健康科学センター）のベン・アマエチ教授の研究チームによって行われた臨床試験で、18～50歳の男女30名の口腔内に、人の抜去歯から用意したエナメル質サンプルを装着させ、6週間を1フェーズとし、2フェーズのクロスオーバー試験を実施した。

被験者の歯面に、エナメル質のサンプルが入った小さな装置を固定させ、朝晩2回・6週間、ハミガキとデンタルローションの併用後、顕微鏡などでサンプルを観察した。具体的には、「健康なエナメル質」「人工表層下脱灰層（初期むし歯）を作ったエナメル質」「表面の粗さと明度を事前に測定したエナメル質」のサンプルは、mHAP配合ハミガキを使用後、同成分配合のデンタルローションを仕上げとして使用した場合、プラセボローションの使用と比べて再石灰化効果が高いことがわかった。

「表面の粗さと明度を事前に測定したエナメル質」のサンプルは、mHAP配合デンタルローションを使用した場合には、エナメル質表面が滑らかに改善され、明度の上昇も確認された。プラセボローションを使用した場合、サンプルの表面粗さや明度に関して同程度の効果が得られなかった。

以上のことから、mHAP配合ハミガキを使用後、同成分配合のデンタルローションを仕上げに使用することで歯の健康だけでなく歯の美しさも改善することが実証された。

「初期むし歯を作ったエナメル質」のサンプルは、両グループとも再石灰化が見られたが、mHAP配合ハミガキを使用後、同成分配合のデンタルローションを仕上げとして使用した場合、プラセボローションの使用と比べて再石灰化効果が高いことがわかった。



※表層下のミネラルの増加を現したグラフ